

【世界RV会議対談】
日本代表プレゼンターの見た会議の様子

キャンピングカー国際化時代を迎えて



日本型キャンピングカーの持つ珍しい文化 「茶室」や「盆栽」などという文化の延長線上にあるもの

日本文化に高い注目が集まる

【記者】 日本のプレゼンターとして、猪俣さんが報告されたのはどのような内容のものだったのでしょうか？

【猪俣】 日本のRV業界の生産台数や売上金額も含め、産業規模やインフラ整備の状況は「キャンピングカー白書2008」のデータを元に正確に伝えました。

ただ、そういう数値的なデータよりも、彼らが関心を持ったのは日本型キャンピングカーの持つ珍しい文化だったんですね。

【記者】 どういうことでしょうか？

【猪俣】 たとえば軽自動車のような超スモ



ールキャンピングカー。こういうものは海外のカテゴリーにはないわけです。

それを、私は日本特有の「茶室」や「盆栽」などという文化の延長線上にあるものだという形で、日本文化を代表する文物の画像なども例に採りながら紹介したんですね。それはかなり海外の人たちの目を惹きました。

【記者】 なるほど。確かに今日本のアニメ、ゲームなどを中心とした日本のエンターテインメント文化が欧米やアジアの若者たちから評価され、「ジャパン・クール」というブームを起こしています。

スシのような日本食も海外で定着しましたし、盆栽や墨絵といった伝統芸能を楽しむ外国人も増えています。

日本のキャンピングカーが海外の代表から興味を持たれたというのは、そういう文脈の中で解釈すればよろしいのでしょうか。

【猪俣】 そうですね。やはりキャンピングカーにもその国固有の文化が反映しているというアプローチが良かったのだらうと思います。

軽キャンパーのような日本独自の小型キャンピングカーが生まれてきた理由も、道路事情や税制上のメリットで説明するより、

「宇宙の広大さを、極小の世界に閉じこめる日本文化が反映されたものだ」と説明した方が反応がありましたね。

【記者】 面白いですね！

【猪俣】 だいたいハイエースなどをベースにした日本型クラスBというものが、海外にはありませんから。

さらに、そういう車両の中には「畳」や「障子」を使った「茶室」みたいなキャンピングカーもあるということ画像も交えて紹介しました。

【記者】 彼らの目には、そういう日本型キャンピングカーが評価できるものとして映ったのでしょうか？

【猪俣】 そういうものが「主流」になるとは思わないでしょうけれど、少なくとも自分たちのRV文化を刺激する材料にはなったと思います。

私のプレゼンが終わった後、アメリカRVIAの代表や南アフリカの代表が声をかけてきて、「非常にいいプレゼンだった。勉強になった」と誉めてくれたことから、なんらかの手応えを感じてくれたという気配は伝わってきました。

道の駅って何だ？

【記者】 そのほかに、外国の代表が関心を持ったことがありましたか？

【猪俣】 「道の駅とは何だ？」という質問を受けましたね。「私たち日本のユーザーはキャンプ場などで宿泊する以外にも道の駅＝ロードサイドステーションで休憩することもある」と伝えたいです。

ところが、こういう正式な宿泊施設ではないのにキャンピングカーが休める“ファジー”な空間というのは、外国にはないわけですね。

これもオリエンタル・デザインを施したジャパニーズRVと同じように、彼らには「エキゾチシズムに満ちたスペース」に感じられたようです。

【記者】 将来、日本製のキャンピングカーが「国際商品」になっていく可能性はあるのでしょうか？

【猪俣】 可能性は多いにあります。日本のビルダーの力というのはメキメキ向上しているから、クオリティだけいえば遜色のないものになっています。ただ、解決しなければならぬ問題も多いですね。

まずレギュレーションの問題。欧米のRVに対する法規制というのはものすごく細かくて、しかも膨大な量に及んでいます。

それに対して、日本のRV業界はそういう欧米のレギュレーションに対応する基準をまだ用意していません。まずそこで、正規に輸出するときに立ちほだかる壁があります。

国産キャンピングカーが世界に飛翔する日

【記者】 なるほど。これは難しい問題ですね。

【猪俣】 しかし、こうも考えられるわけですね。日本のキャンピングカーというのは、欧米のレギュレーションとは異なる構造要件に基づいて造られているにもかかわらず、この成熟した交通社会を実現している日本で、今日までたいした事故も起こさないうまま安全に運行されてきたわけですね。

これはどういうことかという、日本のスタッフ

には、レギュレーションを厳密に守りながら造るという職人的な勤勉さが備わっているだけでなく、デザイナー的な直観力にも恵まれていて、多くの日本のスタッフは、「安全を満たすにはこれだけの基準が必要になるだろう」という判断基準を自分たちの“体内”に持っているからだろうと思います。

【記者】 なるほど。そういった意味でも、日本のRV産業の明るい将来が見えてきた会議だったということですね。どうもありがとうございます。

(構成 町田厚成)



高速道路のサービスエリアも日本独特の休憩スペース(足柄SA)

宇宙の広大さを、極小の世界に閉じこめる日本文化が反映されたもの

皆様からのご意見・ご感想お待ちしております

今回の「くるま旅Vol.5」はいかがでしたか？ 皆様の素敵なくるま旅の参考になれば幸いです。また事務局では皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。「こんな事が知りたい」「こういう特集をやってほしい」などのご要望や、「○○道の駅のは美味い」「私の★★★キャンプ場」「こんな動物と出会った」等々、あなたのくるま旅のエピソードをお寄せください。写真も大歓迎です。十人十色のくるま旅のお話を聞かせて下さい。採用された方には粗品を進呈します。

■宛先 〒194-0022 東京都町田市森野1-10-10 ペアシティエンドビル2-A
日本RV協会事務局「くるま旅編集部」まで

くるま旅 Vol.5

- 発行 日本RV協会(JRVA)
- 編集 株式会社自動車週報社
- 印刷 図書印刷株式会社

〈無断転載を禁ず〉

2009年2月1日発行 Printed in Japan 2009